

令和7年度 学校園評価シート

1 教育目標	「心豊かに学び合い 育ちあうこどもの育成」
2 基本方針	身近な自然や様々な人と触れ合う中で感動体験を重ねながら、豊かな感性と人を大切に育てる。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育を行い、幼児の主体性と友達との協同的な学びが育まれる環境を構成する。
3 指導目標	(1)心も体も健やかで明るい子 (2)思いやりがあり 心の優しい子 (3)様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 (4)自分の思いを伝え 素直に表現する子 (5)感じる心 考える力がある子

(A ; 十分成果があった B ; 現状でよい C ; 一部改善要する D ; 改善を要する)

評価項目	評価の観点	園評価	◎成果 ●課題 ※改善策	評議員評価
教育目標	幼児の発達に応じた経験や体験が得られるような援助や環境構成が計画的に行われていたか。	B	◎個々の良さと課題を共通理解し若い先生が安心して保育に取り組めるように、幼児が心豊かに学び合える興味関心を活かした遊びの設定、必要な援助や環境構成など、十分な時間を設けて話し合えた。ポイントを絞り、時間や回数を重ね話し合うことが若い先生の安心や自信、幼児の継続的な遊びの実現につながった。 ●2年間の教育課程を見通した「園の教育目標」や「目指すこども像」について話し合う機会が少なかった。教師経験の差から、「目指すこども像」を幼児の姿から具体的に捉えても読み取り方の違いがあることがわかった。 ※日々の保育は、目の前の幼児の姿と先を見据えた2年間を通して育てたい力を考えた指導計画の下に行われることを職員間で再確認し、「どんな子に、どんなクラスになってほしいか」「どんな力を身につけさせたいか」など年度当初に話し合い、随時、指導計画や週日案の検討をして指導の方向性を共有していく。	A
	指導計画案を通して、計画的・組織的に目標の具現化が図られているか。			
保育活動	幼児の内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。	B	◎幼児一人一人の内面を読み取り、他職員と共有して話し合い、多面的に捉えることができた。また、幼児の姿や困り感、育ちの記録を基に保育計画をたて、次の指導に活かすことができた。 ◎昨年度の反省から異年齢交流を意識して取り組んだ。担任同士が保育の中で交流を意図的に計画していったことで、幼児同士の自然な交流が生まれ、互いに親しみや憧れの気持ちをもてるようになってきた。 ●内面理解が不十分で幼児へのかかわりや援助、環境構成が効果的でない時もあった。幼児の姿に寄り添うだけでなく、教師の幼児に対する願いやねらいをしっかりともった保育を創意工夫する必要がある。 ※自身の保育や事後の記録を客観的に見直す、研修を保育に活かす、ベテラン教師をモデリングにする、教師も「やってみよう」としてやるなど経験を重ね、教育の質や技術、感性を磨いていく。	B
	発達に必要な援助ができ、主体的な遊びが展開できるような環境構成であったか。			
運営組織	教職員が互いに努力を認め合い、励まし合える明るい職場づくりに努めているか。	A	◎些細なことにも感謝し合い認め合えるチームワークができ、日々の保育、行事等、共通の目標に向かうために職員同士話し合っており取り組もうとする意識も高まった。また、担任同士の連携が昨年よりも深まり、幼児の関わりが広がる要因となった。 ●話し合い、共通理解ができたと感じていても、保育の際に互いに認識やイメージに差が生じていることが多々あった。 ※認識やイメージのずれをなくすために、より若い教諭が組織の中で話せる、ベテラン教諭が話を引き出す雰囲気を作っていく。	A
研修研究	多様な障がいのある状況に応じた指導にあたるなど、合理的配慮を図りながら、専門性の向上に努めたか。	B	◎障がいに関わらず、少人数のクラスの良さを活かし、幼児一人一人の特性や困り感に応じた配慮ができた。専門家を講師に招いた研修では、個別支援を要する幼児の姿やその支援について共通理解できた。教師が、わかって楽しい、次への意欲につながる研修となった。 ●互いの研修報告を、じっくりと出し合う機会がもてなかった。全員が自分のこととして捉えていきたい。 ※園の教育課題を把握し、一人一人にあった指導方法を身に着ける等、継続的な実践に取り組み、資質能力の向上につなげていく。個々の困り感や内面を読み取る力、個々に応じた支援を見極め実践する力を高めていきたい。	A
	社会の状況の変化に対応した幼稚園教育の在り方、教育課題の把握に努め、積極的に園内外の研修会に参加し、自らの資質向上に努めているか。			
家庭地域との連携	中学校ユニット12の取り組みをふまえて、保育内容の連続性・系統性など計画的に実施できたか。 園だよりや教育方針説明会、個別懇談、送迎時の話等、教育目標や方針を知らせ、相互理解し信頼関係を深めているか。	B	◎降園時に保育について伝えるだけでなく、保育ドキュメンテーションを作成し、教師のねらいや願いも含め保育の可視化に努めた。保護者の方も興味をもって見ていただけた。 ◎保護者同士のつながりが就学後の子育て支援につながるなど、講演会でグループ討議を行ったり、定期的に「クリーンタイム(清掃活動)」を開催したりして、自然な交流が図れるように努めた。 ●小中学校との連携は、決まった行事等でしか交流することができなかった。 ※時間の確保は難しいが、事前の打ち合わせで互いのねらいや意図をすり合わせるなど職員間の連携をより密にし、決められた時間中での交流を有意義なものにしていきたい。	A
行事	各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意工夫され、幼児にとってふさわしい内容であったか。	A	◎幼児の興味や発達段階、気候の変動に応じて、行事の内容や時期を設定し、無理なく楽しめるように配慮することができた。特に運動会は、例年よりも遅い時期に開催したことでゆとりをもって取り組めた。 ◎評議員をはじめ、老人クラブの方々や何度も足を運んでくださり、畑の整備や苗植えの手伝い、栽培方法の指導などしてくださった。幼児は回数を重ねるたびに親しみを持ち、地域の方に大切に見守っていただいていることや感謝の気持ちを感じることができた。 ※次年度から3歳児保育が始まる。3年保育の良さを活かし、幼児の発達段階に合わせた行事の内容や精選を行いたい。	A

学校園関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 運動会、生活発表会など参観すると幼児が本当に楽しそうできいきしているのが良い。普段の保育でも、教師が幼児と一緒に遊んだり、園庭開放時に担任が保護者とよく話す機会があったりして、園での様子がよくわかる。 職員がよく頑張っているのが、幼児の成長した姿から見える。教師自身の評価をもっと高くしてもいいのではないか。 研修で学んだことは、保育の場面ですぐに活かせるものとしていないものがあるのではないか。長期的視野で教師の資質や能力が高まるように自己研鑽に努めてほしい。 	<p>評価</p> <p>A</p>
---	--------------------